

# JAC創立100周年記念国内登山(中央分水嶺踏査)の山行報告書

(1)～(8)は必ず記入してください。(9)～(11)は、気づいた事項があれば記入してください。

(1) 担当支部:	東九州支部	(2) 記載者氏名:	飯田 勝之	会員番号:	10912	事務局整理記入欄	東九州 - 20
分水嶺区分	野稲岳林道～K071野稲岳～堂尾台	(3) 山行日:	2004年	7月	25日	(4) 天候	曇

(5) 参加者氏名および会員番号

サポート要員氏名および会員番号

橋本祥案	4375	佐藤秀二	13141	安部可人	会友			
西 孝子	8325	中野 稔	13997	遠江洋子	会友			
飯田勝之	10912			長野瑛子	会友			
佐藤正八	11315							
計				6名				
				計				3名

(6) 山行記録・位置確認(出発点・ピーク・峠・到達点など、主要ポイントに関して)・所要時間・道の状況

コース概略:	野稲岳林道が分水嶺上を横切る地点からヤブの林内に踏み込み、後はまるく幅の広い稜線をたどって野稲岳に至り、そのまま稜線を下って934mの標高点まで												
アプローチ:	県道別府一ノ宮千(九州横断道路)から野稲岳林道に車を乗り入れて、ゲート付近に駐車し、行程終了後は林道を引き返す。												
地点コード	地点名	2.5万分の1 地形図名	経度E			緯度N			高度 m	到着 時刻	出発 時刻	道の 状況	(8)～(11)の特記 事項等との関係
			度	分	秒	度	分	秒					
歩行開始点	林道ゲート	湯平											
分水嶺到達点	林道ゲート	湯平	131	17	14.0	33	13	57.9			7:00		
	稜線上	湯平	131	17	14.8	33	13	57.0	813	7:08		B-3	
	919mピーク	湯平	131	17	32.3	33	13	50.3	918	7:40	7:55	B-2	
	970mピーク	湯平	131	17	31.0	33	13	39.9	973	8:40		B-2	
	1020m	湯平	131	17	29.0	33	13	32.5	1,022	8:05		B-3	
K071	野稲岳	湯平	131	17	24.5	33	13	25.4	1,041	9:30	10:00	B-3	
分水嶺離別点	堂尾台	湯平	131	17	38.2	33	13	10.3	939	10:50	11:00	B-2	
歩行終了点	林道ゲート	湯平								13:25		林道	
総歩行時間(休憩時間を除く):												5時間20分	

(7) 三角点の位置と保存状況

上記(6)の地点コードを 記入してください	点名	等級	方位	保存 状況	特記事項
K071	野稲岳	3	正位置	完全	近くにアンテナあり

(8) 人工施設の現況および地形図との相違点

野稲岳山頂にはアンテナとキュービクルあり。
野稲岳山頂から山腹を巻く林道と山頂との間に復員約5mコンクリート舗装の(アンテナ管理道路)道路が敷設されている。 (地図にはない)

(9) 水および植生に関連した特記事項

踏査開始地点から919mピークまでは常緑樹と落葉樹の混交二次林、919mより970mピークの中腹まではヒノキの人工林、 970mより山頂まではブッシュをとまなう混交二次林である。
堂尾台一帯は広大なヒノキの人工林である。

(10) その他の特記事項


(11) 写真の添付:(有りの場合には、写真説明を記入してください)

写真説明:	
	写真1:野稲岳にて
	写真2:野稲岳3等三角点

山行報告書(続き)

表面(1ページ目)に書ききれなかった事項を記入してください。

水分峠からやまなみハイウエーを走り、野稲岳の手前で林道に入る。林道に入って2・300mで左手に林道分岐が現れて、入り口にゲートがあり、ここから登る。ゲートの横には人が通れるほどにしている。7時ちょうどに出発し、ゲートからほぼ平らな道を200mほど行くと最初のカーブがあり、プレハブの小屋がある。このあたりが分水嶺の稜線上で、ここから稜線をたどることになる。鉄塔のある山頂までピークが三つあることが 眺望できる。
---

林に入るといきなりの藪。足下は腐った倒木と前日の雨のせいもあってボコボコの状態で、小さな木が茂っていて歩きにくい。30分ほどで藪を抜けてやや平坦なところに出る。ここから見通しの良い自然林の緩い稜線登りだ。5分ほど登ると最初のピークに到着。

7時40分、919mの標高点で北半分が自然林、南側がヒノキの植林地である。

一休みの後そのままヒノキの尾根筋にある踏み跡を進むが、道は下るばかり。次のピークが時おり見えるが離れるばかり。

どうやら下る方向を間違えたようだ。ヒノキの疎林の山腹をトラバース気味に引き返し、浅い谷を登り返して次のピークとの鞍部に出た。

次のピークに向けてヒノキの植林地の中の急登を進む。15分ほどで自然林となりさらに20分ほどで二番目のピークに着いた。

8時40分、標高970mのピークに到着である。ブッシュの向こうに野稲岳山頂の鉄塔が見える。低木の藪をかき分けながら一旦緩やかに下った後、山頂に向かって緩やかに登っていく。

20分ほど登っていくとやがて次第に平らになり、広い野稲岳山頂の一角に着くが鉄塔はまだ向こうの方である。右に左に藪を分けながらの緩やかに下り、更に緩く登っていくと突然藪がひらけて鉄塔の脇に出た。9時30分、野稲岳山頂到着である。三角点のあるあたりを手分けして探すと、深いカヤと雑草の中に発見する。カヤを刈り払って皆で記念写真の撮影。そばには国土交通省の巨大なアンテナとアンテナハウスがある。

時刻はまだ早いので、ここからさらにこの先の934mのピークまで行こうということで衆議一決。鉄塔の裏側に回って藪の中に分け入る。鉄塔に至る管理用の舗装道路は地図に書かれていないが、分水嶺を寸断してZ字に造られている。

猛烈なブッシュをかき分けて前進する。いったん舗装道路に出たあと再びスギの植林地の中に入り、めざす小ピークへと向かう。スギ林の中を緩く登っていくと、やがてピークにたどり着いたものの、だだっ広い鈍頂で、何処が最高地点か分からない。地図上は標高点なので四等三角点でもないかと皆で手分けして、見通しの良いスギ林の中を探すが見あたらない。10時50分、一応最高地点と思われるところを確認して引き返す。

舗装道路に出て、入り口から延びる私道との三叉路で昼食をとり、林道を歩いて車の置いてあるゲートに向かって戻っていく。約1時間の林道歩きでゲート到着。



写真1:野稲岳にて



写真2:野稲岳3等三角点